

---

# 母よりも大きな、板チョコ

国後旺

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

母よりも大きな、板チョコ

### 【Nコード】

N2026E

### 【作者名】

国後旺

### 【あらすじ】

我が家に、とても大きな板チョコが舞い降りた。（ジャンル：エッセイ）

だいぶ前のことだ

「仕事先でチヨコ貰ったよ。板チヨコ」

「は？ あー、そう。で、それがどうし……」

お母さんは、お母さんの胴体よりも大きな板チヨコを持っていた。

「でかすぎやろお!？」

「あんたの声もでかいつて」

「なん、なん？ どうしたん？」

ごはん片手にテレビ観てた姉がこっちを振り向く。

「おお、ねーさま」 どうでもいいことだが、俺は姉をねーさまと呼んでいる。

「うわ！ でか!！」

驚く姉。箸を落とした。

「やんなあ!？ でかすぎやんなあ!!？」

同意を求める俺。スルーされる。

姉はチヨコに夢中である。

「はー、こりやすつごいね。ツルツルやん」

「ねーちゃん。それはチヨコを包むビニールよ」 どうでもいいこ

とだが、俺は姉をねーちゃんとも呼んでいる。

「分かってるって」

となりで俺もチヨコを包むビニールをペタペタ触る。うわー、う

わー、たまんねえ。

「ちょ、お母さん、貸して貸して」

お母さんからのチョコ奪還成功。ズシツと重い。

「こ、こんな重いチョコ…初めてだ…ぜっ…」

「いや、流石にそこまで重くないやろ」

「クール過ぎるよ、母上」 冗談が通じないお人だ。

姉が二階に上がる。ドタバタと駆け上がる。いつもは物静かなお人だが、興奮してらっしゃるな。そんなときの姉は面白い。日ごろ冷めてるから、余計に面白い。数秒後、ドタバタと足音が近づいてきた。俺の予想だと…、

「ケータイ持ってきたー」 やっぱりね。こんなときの姉は、大抵カメラマンだ。

「ちょ、旺。チョコ机に置いて」

「へ？ あー、うん」 置いた。

「これでいい？」

「その上に手、置いてみ？」

「へ？ あー、うん」 置いた。

「そろばん」

パシャ

なるほど。写真を見る。更に、なるほど、と思った。お母さんも「なるほど」と言った。

それから色々写真をとった。ちょっと、至福のときである。

その間、テレビはつけたままである。もったいないと言わないで。

しばらく経って、俺達は正気に戻った。正気に戻った俺と姉が言った最初の言葉は、

「このチョコ、どうする？」

うーん。なやむ。

お母さんは飽きて、テレビ観てる。

「じゃあさ、」

姉は言う。

「今日は、お座敷に飾っておこう」

飾った。

俺達は、チョコを拝んだ。

その間、お母さんはテレビ観ながら寝てた。こら、もったいない

でしよ。

（後書き）

二週間後には、チヨコは消え失せてました。甘かったです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2026e/>

---

母よりも大きな、板チョコ

2010年12月30日04時28分発行